

(動物学会 北海道支部 支部講演会 第 609 回 兼 行動神経生物学セミナー)

12 月 24 日水曜日 PM 5:30～6:30

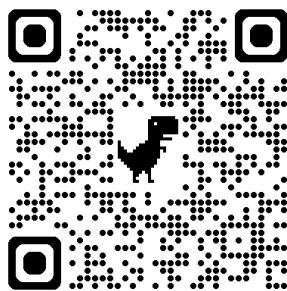
5 号館 8 階 813 号室

佐々木 嵩夫 SASAKI, Takao

Associate Professor,
Brain and Cognitive Sciences
University of Rochester

鳩と蟻を使った集団思考の研究

集団思考—人間や動物のグループが、あたかも一つの「脳」として情報を処理する現象—の研究は、100年以上の歴史をもつ古典的なテーマです。しかし、自然界においてどのような状況で、またどのようなメカニズムによって集団思考が個体の思考を上回る（あるいは下回る）のかは、いまだ十分に理解されていません。私の研究室では、ムネボソアリ (*Temnothorax rugatulus*) と伝書バト (*Columba livia*) をモデル系として、この問題に取り組んでいます。心理学で用いられる個体の認知能力測定法を応用し、集団および個体レベルでの意思決定の特徴を比較しています。さらに、実験データと数学的モデルの解析を通じて、集団思考が「いつ」、そして「どのように」創発するのかを明らかにすることを目指しています。本セミナーでは、これまでの成果に加えて、現在進行中の「集団学習」に関する研究も紹介します。



個が集まった集団が、一つの生命体として様々な行動・意志決定をします。佐々木先生は、この「集合知」の研究を様々な生物を用いて研究されています。とても面白く、かつ不思議な生命現象を精力的に研究されています。今回一時帰国の機会を捉えて、北海道大学に足を運んでいただきました。専門・専門外に関わらず是非、セミナーを楽しんでいただけたと思います。（日本語での発表になります）

連絡先 和多 和宏 (wada@sci.hokudai.ac.jp)